

【音楽科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証・評価

- 授業の流れを板書し、見通しをもって取り組めるようにした。
- 個人練習の時間を確保することで学習の定着が見られた。
- 友達の演奏を見たり聴いたりして、共通点や差異点を見付け、めあてをもって演奏することができた。
- △練習方法を整理してまとめ、児童が自ら問題を解決出来るよう支援する必要がある。

2 今年度の学習状況の分析に基づく課題

| | 音楽への関心・意欲・態度 | 音楽表現の創意工夫 | 音楽表現の技能 | 鑑賞の能力 |
|---------|---|--|--|--|
| 学習状況の分析 | どの学年も音楽活動に意欲的に取り組んでいる。友達と一緒に声や音を合わせて合唱・合奏することに興味・関心が高く、より難しい課題に取り組もうとする姿が見られる。 | 低学年は、音楽に合わせて生き生きと身体表現をしたり拍の流れによって歌ったり演奏したりすることができた。中・高学年は、音の強弱や音色について思いや意図をもって楽曲に合った表現の工夫をしたりすることができている。 | 低学年の児童のほとんどが、拍によってリズム打ちをしたり歌ったり演奏したりすることができている。また、中・高学年も、響きを感じながら声や音を合わせて歌ったり楽器を演奏したりすることができている。 | 低学年は、音楽の気分を感じ取り拍によって身体を動かすことができた。また、中・高学年は、歌唱・器楽の曲を鑑賞曲と関連付けることで、共通事項や曲の仕組みを理解し、味わって聴くことができてきている。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ○ ねらいを明確にして題材を設定し、興味・関心を高める導入の提示を工夫する必要がある。 ○ 表現の創意工夫について低学年からの系統的な指導を重点的に行う。 ○ 発達段階に合わせて歌唱・楽器の基礎的な技能の習得を図る。 ○ 共通事項を基に表現と鑑賞を関連付け、楽曲のよさや特徴に気付かせる必要がある。 ○ 声や音を合わせて合唱・合奏する楽しさを味わえるようにしていく。 | | | |

3 授業の具体的な改善策

| | |
|-----------------|---|
| 目標 | <p>表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを旨とする。</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感情を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。</p> |
| 全体 | <p>主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善</p> <p>主体的に音楽活動を行えるようにするために演奏前に、どんなふう演奏したいのか自分のめあてをもたせ、表現させる。</p> <p>対話的で深い学びになるように友達の演奏を聴き合ったり、めあてが達成出来ているかを演奏して確かめたりする。</p> |
| 学年段階別改善策 | |
| 低学年 | <ul style="list-style-type: none"> ・身体表現やリズム遊びを取り入れて、より多くの学習体験ができるようにする。声や音を合わせて歌ったり演奏したりする楽しさを味わえるようにする。(関心・意欲・態度) ・輪唱やふしを追いかける曲、身体表現、リズム遊びなど、多様な楽曲を取り入れ、楽しく伸び伸びと表現できるようにする。(音楽表現の創意工夫) ・リズムを覚えたり階名唱をしたりすることを楽しんでできる「音楽遊び」を取り入れた学習を行う。鍵盤ハーモニカの指使いやタンギングなど、継続して取り組ませるようにする。(音楽表現の技能) ・友達の演奏を聴いたり、鑑賞曲を聴いたりする機会を取り入れ、「曲のどこからそう感じたのか」など、言葉などで表すことができるようにする。(鑑賞の能力) |
| 中学年 | <ul style="list-style-type: none"> ・合唱曲や合奏曲を通して、音の重なりを味わいながら意欲的に音楽活動を行っていけるようにする。(関心・意欲・態度) ・音程に気を付けて歌い、ふしを重ねた曲や簡単な部分二部の曲など、友達と聴き合いながら表現する活動を多く取り入れる。(音楽表現の創意工夫) ・旋律を味わって表現できるような楽曲を多く取り入れる。表現の手だてとして指揮を取り入れる。(音楽表現の技能) ・演奏を聴き合ったり鑑賞曲を聴いたりする機会を取り入れ、想像したり感じ取ったりしたことなどを音楽の中から見付けて言葉などで表すことができるようにする。(鑑賞の能力) |
| 高学年 | <ul style="list-style-type: none"> ・合唱曲や合奏曲を通して、音の重なりを味わいながら意欲的に音楽活動を深めていけるようにする。(関心・意欲・態度) ・合唱・合奏の響きを味わいながら「こんなふう演奏したい。」という思いをもって表現できるようにする。(音楽表現の創意工夫) ・音色や強弱などに気を付けて、ハーモニーを味わって表現できるような楽曲を多く取り入れる。表現の手だてとして指揮を取り入れる。(音楽表現の技能) ・演奏を聴き合ったり、鑑賞曲を聴いたりする機会を取り入れ、感じ取ったことを音楽の中から見付けて言葉などで表すとともに自分の演奏に生かすことができるようにする。(鑑賞の能力) |